

善通寺で食料支援



日本民主青年同盟香川県委員会は21日、善通寺市で学生を対象にした食料支援に取り組みました。

提供品を受け取りました。ルームシェアをしている学生(22)は「初めて参加します。アルバイト先の店が閉まりバイトを変わらざるを得ませんでした。下宿代はシェアしていても大変です」と話しお米や乾麺を受け取っていました。

最初から参加している女性(73)は、「困ったときの助けになればと参加しています。コロナで困る学生がこんなにいるのかと感じています。一人暮らしの大変さもわかりました」と話しました。

主催者は、入学式に案内ビラを配ったり、大学周辺でビラを配るなどして周知を図り、地元産のお米や乾麺、飲料水や衛生用品が並びました。

「面接もオンラインになり戸惑いました」という就職活動中の学生らが

5月30日 憲法記念日のご案内

☆高松市 平和憲法を生かすかがわ民の会
高松市のレクサムホール 午前10時から正午
入場は無料 前川喜平氏の講演
☆多度津町 九条の会多度津
サクラートたどつ 午後2時から
響場和彦、徳島大学教授の講演とコンサート

民主香川

定価 月 100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311

医療の改悪反対 革新懇と民医連

香川県の革新懇と民医連は23日、高松市の中央通り沿いで75歳以上の高齢者医療費改悪に反対するスタンディング宣伝をしました。

日本共産党の白川よう子衆院四国ブロック比例候補、立憲民主党の富野和憲代表



が参加しました。参加者は医療改悪反対を示すプラスタターや横断幕を手に行きかう車にアピール。思いをリレートークしました。

白川氏は「医療現場の出身者として、今なげ、高齢者医療費負担2倍化やベッド数削減の法案を審議しているのか。間違った方向の政治を、私たちの声で変えよう。市民と野党の共同で私

富野氏は負担増による受診控えをしないためにも反対していく決意を語りました。

参加者は、「憲法通りの医療体制が当たり

ハリー・ライムの映画案内

テーマ【デジタル化】
『AI崩壊』(00・日)

【監督】入江 悠
【出演】大沢たかお 賀来賢人 広瀬アリス

デジタル改革関連法案の強引な審議手法に批判が高まっている。法案の狙いはデジタル庁の9月設置をはじめ、プライバシーを侵害する個人番号(マイナンバー)の利用拡大や社会保障の削減、国による地方自治の統制強化、個人情報保護の官民共用の推進である。マイナンバーをひも付けた銀行口座の情報や国が吸い上げ、税、社会保障、災害対策に限定されているマイナンバーの利

用範囲を拡大し、個人情報をもうけのために活用する危険な企てである。そこで今回は【デジタル化の恐怖】をテーマに警鐘に。スティーン・スピルバーグ製作総指揮の、ネットワーク化が進んだ社会の恐怖を描く『AI崩壊』(08・米)。社会のあらゆるところに張りめぐらされ、我々の生活を支えるデジタル・テクノロジー。しかし、発

達したテクノロジーがある日突然、人類に牙をむいたら…。『サーチ』(18・米)。行方不明になった一人娘を見つけようと、娘のパソコンやSNSで手がかりを探っていくうちに浮かび上がってきた娘の思いも寄らぬ実像に混乱していく父親の不安と恐怖を、PC画面の映像のみという斬新な演出でスリリングに描き出す。邦画からも『スマホを落としただけなのに』(18)。

と判断された人々の殺戮を始める。警察は、AI「のぞみ」の暴走を、その開発者の桐生(大沢たかお)によるテロと断定、逃亡を図った桐生を全国に張り巡らされたAI監視網で追い詰めていく。日本中がパニックとなる中、警察の追跡をかわしながら、のぞみの暴走を食い止めるべく真相解明に奔走する桐生だったが…。

落としたスマホが運悪く悪意を持った人物の手に渡ってしまったことから、やがて戦慄の恐怖に見舞われていくヒロインの運命をスリリングに。いまや国民の大多数がなくてはならぬアイテムであるスマホは、個人情報満載でハッキングされると丸裸にされてしまう。大ヒットして続編『スマホを落としただけなのに』(19)が制作された。

人権・民主主義・憲法を踏みにじる「監視社会」など言語道断。個人情報保護を自分でコントロールできる権利の確立や、個人情報保護委員会の権限強化が必要である。自治体で個人情報保護を最優先する条例の制定を要求し、「デジタル改革の前に個人情報保護の徹底を」の声を広げよう。



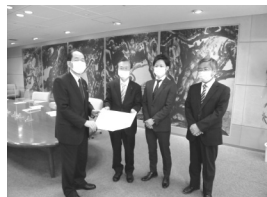
梁居来夢

前なのにそうならない。憲法が生きている社会を実現しよう」「高齢者負担増で、コロナが落ち着いたら健康で文化的な暮らしができるのか」「私の家族は病院が

欠かせません。頑張ってください。高齢者にまだつらい思いをさせるのか」など、思いをつむぎました。これからも定期的に行っていく予定です。

日本共産党香川県委員会と県議団は27日、「感染拡大の第4波から県民の命・暮らしを守るための緊急申し入れ」を浜田恵造県知事に

べてで行い、頻度を多くすることを。検査対象者の拡充を、②医療機関への財政支援の強化、



③継続応援金の支給対象の拡大と申請手続きの簡素化、

④県独自の奨学金返還制度の創設と、大学の授業料半減を国に要望など、学生支援の強化などが含まれています。

榎県議は「検査の徹底が大事で、連休直前のなか、補償と一体の取り組みを進めてほしい。感染爆発の状況を防がないといけない」と求めました。

浜田知事は「検査は幅広く検査を行っている。検査の重点化を考えている」など、項目の一つ一つに丁寧に答えました。

愚台教太

新型コロナウイルスの感染拡大が収束どころか勢いを増して日本社会に牙をむいている。国民は長期にわたる自粛で、旅行、会食、花見、何もかも我慢。政府の対策に先が見えない。▼そんな中JR四国が「長期経営ビジョン2030」「中期経営計画2025」を発表。これは法の成立で同社には2025年までに1025億

円の国の支援が決まったことを受けたもの。発表によると30年度の連結売上高を19年度比1.2倍の600億円、鉄道運輸収入を19年度比11億円増の235億円としている▼計画の内容は、◎非鉄道事業による収益拡大に駅ビル、マンション事業、◎赤字路線の存続の検討、◎運賃値上げ、等々をあげている。さらに「四国新幹線の早期実現」を盛り込み、西牧社長は、国や四国4県、期成会とこれまで以上に連携し、早期実現に頑張ると述べた▼中長期ビジョンの中で赤字路線についての検討を「なるべく早く始めたい」とし、一日平均通過人員2千人以下は鉄道事業としては成り立たないことを、広く世の中の人にわかってもらいたい。「一日平均通過人員が1千人にも満たない予士線、予讃線の一部、牟岐線の一部などを挙げている。税金で国の支援を受けながら儲けにならないと切り捨て、利用客の安全や利便性への改修を求める声には「金がない」と聞く耳を持たない。公共性と住民の生活を守る役割を投げ捨て、駅ビルやマンション新幹線への投資を重視するJR。そういう指導をする国。この姿勢を変えないければ、コロナ後に旅行が活発化しても税金頼みの経営が続くだろう。

感染拡大の第4波から 県民の命・暮らしを守る ための緊急申し入れ

中谷浩一県委員長、榎昭二、秋山時貞両県議が、浜田知事が応対しました。申し入れは①クラスター拡大を防ぐ定期検査を医療機関のす